

対談

東アジアの グランドデザインを描け。

日米安保五〇年を踏まえて、
アメリカと新しい東アジア戦略を築くべき。



ジェラルド・カーティス

（ロンドン大学教授）
ニューメキシコ大学卒業。コロンビア大
学政治学博士課程修了。同大学助教授な
どを経て現職。一九七四年から九〇年ま
でコロンビア大学東アジア研究所所長を
務める。米国屈指の知日派として著名。
著書に『代議士の誕生』『日本対政治の
本質』『政治と秋刀魚―日本と暮らして
四五年』などがある。

米国に不信感を
植えつけた鳩山論文
手嶋 鳩山政権は、発足して早々、
その外交路線を対米重視からアジア
重視にシフトしているかに見えま
す。そういう情勢下で、日米同盟は
今後どうなっていくのか、内外の外

手嶋龍一

（外交ジャーナリスト）
てしま・りゅういち
元NHKワシントン支局長。二〇〇五年
にNHKから独立し、翌年発表したイン
テリジェンス小説『ワルトラ・ダラー』
がベストセラーに。近著に無名時代のパ
ラク・オバマ米大統領との交流を描い
た『葡萄酒が、さもなくば銃弾を』。世界
の二九都市に生起する情報戦を綴った
『ライオンと蜘蛛の巣』などがある。



交・安保専門家は、鳩山外交の舵取
りを注視しています。

この対談が読者の目に触れるころ
には、目下の懸案である普天間基地
移設問題は結論が出ているかもしれ
ませんが、カーティスさんは現状を
どうご覧になっていますか。過去の
経緯を知る立場からいえば、やはり
辺野古への移設案を軸にとりまとめ
る他に策はないと思うのですが。
カーティス 今の時点で予測はしに
くい。鳩山総理にとって苦しい決断

が要される。社民党と国民新党の反
対を仕切れるかどうか。現実問題と
して辺野古以外にオプションはない
と思う。そうなら、鳩山さんは早く
決めたほうがいい。そうしないと、普
天間の移設だけでなく、アメリカと
の安保関係そのものが問題になる。

普天間の移設が決まっても、これ
からの日米安保に対して、民主党政
権とオバマ政権がどう考えるかとい
う課題が残る。

日米安保条約第六条には「アメリ

カ合衆国は、その陸軍、空軍及び海
軍が日本国において施設及び区域を
使用することを許される」とありま
す。鳩山政権はその日米安保を維持
したいのか、それとも変えたいのか。
維持するならば、そのなかで今
後、沖縄の米軍基地の縮小をどう考
えているか。オバマ政権は沖縄にあ
る米軍のプレゼンスを減らす必要が
あるとわかっているのかはつきりし
ない。

手嶋 その問いに対して、鳩山政権
はすでに回答を示してしまった。鳩
山政権の誕生が確定的になった昨年
八月二十六日の「ニューヨーク・
タイムズ」電子版への投稿がそれ
です。この中で鳩山さんは「東アジ
ア共同体」構想を提唱し、「アジア
中心の経済、安全保障体制の構築」
を唱えたのですから。あの記事を素
直に読んだアメリカの識者は、新政
権は日米安保を緩やかなかたちで離

脱し、東アジアへの傾斜を強めてい
ると受け取ったことでしょうか。

カーティス あの記事のお陰で鳩山
さんは大分誤解されている。鳩山さ
んにとって少しもプラスになってい
ないし、日本のためにもよくない。
残念な出来事だったと思いますが、
その記事ばかり注目しないほうがい
い。アメリカ人のなかで鳩山さんを
よく知っている、個人的つき合いの
ある人は少ない。オバマ政権には一
人もいないのではないかと思いま
す。

そうすると、あの「ニューヨーク・
タイムズ」の記事を読んで、「鳩山
由紀夫という人は、アメリカとの同
盟よりアジアのほうを重視している
のか」とか、「グローバルライゼーシ
ョンを否定しているのか」と思われ
ても仕方がない。

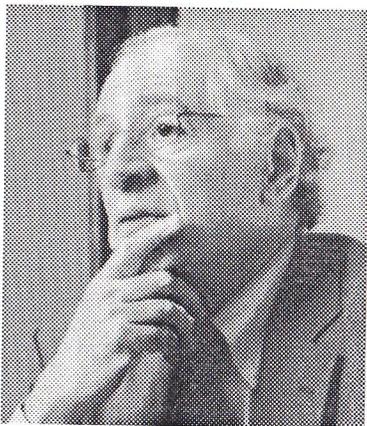
私は鳩山さんを二〇年以上前から
知っているけれども、彼はそういう

のか疑問なのです。とりわけ日米
同盟をめぐっては、鳩山政権になっ
て基盤が揺らいだわけではない。実
は自民政権の時代に、日米同盟の
基礎は弱まっていたのです。

オバマ大統領が来日した折の「東
京演説」に私も招かれましたが、オバ
マ演説はその点を鋭く指摘していま
す。「東アジアでのリーダーシップ
を取り戻し」、「日米同盟を再活性化
しよう」と呼びかけたくだりがそれ
です。自民政権が執行役だった同
盟関係が機能していれば、こんな表
現はしないでしょ。

さらに「日米安保五〇年」を踏ま
えて、東アジアのグランドデザイン
を日本と共に描こうと言いました
が、自民政権が、アメリカと新し
い「東アジア戦略」を築けなかった
ことの裏返しです。今後半世紀にわ
たって指針となる構想を提唱した人
はいなかったのです。日米同盟の現

鳩山政権はその日米安保を
維持したいのか、
それとも変えたいのか



考えの人ではないと確信している。
ただ、そのことをアメリカの人たち
にいくら言っても、「いや、そう言
うけれども、あの記事はどう解釈し
ても反米、反グローバルライゼーシ
ョンの印象を消せないじゃないか」と
言われるわけです。

手嶋 「印象」というより、明確に
そう書いてあるのですから、誤読さ

状はかなり憂慮すべき状況にあると
言わざるをえません。

カーティス だから日本政府に戦略
的ビジョンがないといけない。それ
がないままで沖縄の米軍基地の問題
を解決しようと思っても、うまくい
きませんと申し上げてきました。

アジアの安定と 東アジア共同体

手嶋 その点で、鳩山さんが提唱し
ている「東アジア共同体」構想をど
うとらえておられますか。

カーティス まず、東アジア共同体
そのものは大事だし、必要だと思
います。

東アジアの特徴は、お互いに信頼
感が薄い。日本と中国、日本と韓
国、あるいは東南アジア、韓国など
と中国についてもそうです。そうい
う信頼度の低いところは問題が起き
やすい。ですから東アジアの協力的

れたとはいいいかねるでしょう。
カーティス 鳩山さんの肩をもつ
もりはないが、総理になる前に出た
記事であって、総理になってからの
発言は違ってもっと理解して評価す
べきだと思う。

たしかに、鳩山政権の一つの問題
は、外交政策についてどういう人た
ちがブレインになっているのか。官
僚の意見を聞かない。学者の意見
も、いままで民主党とあまり接触の
なかった人たちの話は聞かない。何
でも自分たちで決める。こんなこと
を続けていたら失敗しますよ。

ただ、政権をとってまだ二、三カ
月ですから、いまの時点で「この政
権はだめだ」とか、「政権担当能力
がない」とか、そんなことを言うの
は早すぎると思います。

手嶋 確かに即断するのは早計で
す。仮に民主党政権がだめだとして
も、自民政権に回帰する余地があ

制をつくる努力が大切で、それによ
ってお互いの信頼感が高まるならば
アメリカにとってもいいことだと思
います。

もう一つは、東アジアはヨーロッ
パと違って多様性があるでしょう。
文化も違う。政治制度も違う。経済
の発展レベルも違う。だから共同体
といっても、欧州共同体とか欧州連
合のようなものになるのは早くても
何十年か先の話であって、アメリカ
は過剰反応する必要はない。日本が
中国や韓国とより密接な関係をもつ
ということとは、トラブルが起る可
能性が少なくなるわけですから歓迎
すべきだと思います。

ただワシントンで問題視されてい
るのは、鳩山政権が考えている東ア
ジア共同体というのは何か日米同盟
を弱めるものであって、日本は東ア
ジアからアメリカを追い出したいの
ではないかということだ。事実は大

うが、鳩山政権の説明は不足している。

手嶋 「ニューヨーク・タイムズ」の記事をまとめたといわれる人の考え方はともかく、鳩山さんの考えはそうではないはずだ。

ですからオバマ大統領が東京演説で、「日米両国」は「他の国の成功」つまり中国の「成功を恐れる必要はない」と言いました。同じ言い方をすれば、「アメリカは日本が提唱している東アジア共同体を恐れる必要はない」と言い換えられるでしょう。

カーティス 「ASEANプラス3」というのはASEANの一〇カ国と日本、中国、韓国でしょう。これも一つの東アジア共同体です。これにはオーストラリアなどは入っていない。

しかし東アジアサミットにはASEANプラス3に加えてインドもオ

ーストラリアもニュージーランドも入っています。これも東アジア共同体です。

それからAPEC（アジア太平洋経済協力会議）にはアメリカ、チリ、メキシコなども入っている。東アジア共同体というのはそういう重層的でマルチな組織の上に立っていると、いうことを考えると、アメリカは過剰反応する必要はないのです。

鳩山さんが考えていることは大枠では間違っているとは思いませんが、鳩山さんのいう東アジア共同体とは具体的にはどういうものなのか、残念ながら説明が足りない。もっと詳しく細かく説明する必要があると思います。

国連至上主義の危ない落とし穴

手嶋 民主党政権のキーパーソン、小沢さんは、「インド洋での給油活

カーティス 政府というのは自分の国の国益を考える立場にあります。国連が決めなくても国益にプラスになることがあれば、それをやるべきです。

要するに、国連中心主義というのは安保理が決めたことに従うということだから、中国やロシアが反対すれば安保理は通らない。そうすると、日本は中国やロシアのいうとおりに行動するということになるわけだ。ありえない話だと思う。

手嶋 とりわけ日本は安保理の常任理事国ですらないのですから。カーティス 小沢さんと国連至上主義について直接話をしたことがないので、彼が本当にそう考えているとはちょっと考えにくいですがね。

手嶋 小沢流の議論の源はかつての政権交代に遡ります。細川政権当時、七党をとりまとめるにあたっ



日米同盟の現状はかなり憂慮すべき状況にあると言わざるをえません

動は国連の決議がないからだめだ」と主張しています。その一方で、国連決議さえあれば、アフガニスタンに展開している国連平和維持軍に参加でき、結果的に武力行使をしてもかまわないと。

カーティス 彼はそういう考え方で

手嶋 この問題をめぐって、鳩山さんと公に二人で議論をしたとき、鳩山さんは「自分はそのままでやっているとは思わない」として、あくまで国連重視にすぎないと、両者の意見の違いを認めていました。

カーティス 二人は違うと思う。

手嶋 小沢さんの思想は、明らかに「ワシントン」ではなく「ニューヨーク」を志向しています。つまり日米同盟から国連安保にベクトルが向いている。日本人は国連安保にナイーブなのですが、この小沢路線についてはどうご覧になりますか。

な党内の組織を廃止して政府が決めることになっていくでしょう。小沢さんは政府に入っていないから、政策決定についてそれほど大きな発言力を持っているとは思えない。

手嶋 民主党の公の説明ではそのとおりです。しかし実態はかなり違っています。たとえば例の「アニメカフェ」が事業仕分けで廃止になりましたね。

カーティス 真っ先に廃止でした。手嶋 ウワモノは確かに不要かもしれませんが、日本の重要な文化政策は必要とアニメ業界の人たちは主張しています。そこでいま、政策の見直しが進んでいます。もともと見直すべきだと反対していた民主党の人たちは、文科科学省の大臣でも副大臣でも政務官でもないのですが、この問題を実質的に取り扱っています。

カーティス 事業仕分けのやり方は

乱暴といえど乱暴だが、予算の中にどれほど無駄があるかを国民に知らせるためにこのようなやり方をとったのはいいと思う。事業仕分けで廃止と決められた物の中で残すべき物があると思えば、内閣の協議で復活すればいい。

少なくとも国民の目に見えないところで官僚と族議員が予算を決めていた従来のやり方に比べればはるかに透明性が高いわけで、試みとしては評価すべきだと思います。

手嶋 私も事業仕分けは、日本の政治文化を変えてしまう可能性を孕んでいると思います。面白い手法ですが、政府にいない人が政策決定に影響力を振るっているのも事実です。

日米中のパワーバランスが重要

手嶋 さて、カーティスさんは今後の日本と中国の関係はどのように推

表情を変えなかったという。賛成なのか反対なのかさえわからない。

アメリカ政府の立場からは、中国と日本は世界第一と第二のドルの保有国ですから、G2のような考え方で中国側に吸い寄せられるのではなく、米・中・日が正三角形を保つてうまく御していかなければいけない。

最悪の事態を想定すれば、もし台湾海峡に有事が持ち上がれば、中国が意を決してドルを売ってくる可能性だってあります。「ジャパン・パッシング」や「ジャパン・ナッシング」という事態は、東アジア戦略の立場からはありえないと思います。カーティス それはありえませんか。

手嶋 ただし、その一方で、日本が沖縄の米軍基地の問題などで、同盟関係を損なってしまう、アメリカを「G2体制」に追いやってしまう

移していくと見えていますか。

カーティス 日本としてもアメリカとしても、中国を抱き込むようなかたちで協力体制をつくる。同時に、パワーバランスを保つための対策も必要だと思います。とくに後者のためには日米同盟が必要です。

要するに、中国を敵と見なして封じ込めるようなことはどの国にとってもプラスにならない。ただ、協力すれば中国は何も問題を起こさないという保証もない。やはりパワーバランスも必要だと思います。

複雑で難しい外交だから、このハンドリングを間違えると大変なことになりかねない。たとえば日本が中国との協力体制ばかり考えてパワーバランスの必要性をあまり感じていないとなれば、日米間に軋轢が生じる。

あるいはアメリカが「G2」（米中二極体制）ばかりをいって、中国

ことになりかねない。鳩山政権は心すべきでしょう。

カーティス 手嶋さんは、沖縄における米軍のプレゼンスについて長期的にはどうすべきだと思いますか。

手嶋 僕は本質的にアメリカは日本への駐留を望んでいると思います。それは中国に対する備えというより、誰も口をつぐんで言わないのですが、日米同盟を一種の対日封じ込めの決め手にしている側面があるからです。それも含めて、米軍が沖縄に駐留するのはやむをえないと思います。

カーティス 私もそう思います。しかし沖縄にいまのようなかたちで、いまのような人数が必要だとは思わない。

手嶋 アメリカの東アジア戦略も刻々様変わりしており、見直しは必要であり、より合理化できるはずだと思います。

と仲良くすれば何でも解決できると思っていると、日本に対米不信感が生まれる。それではアメリカのアジア政策はうまくいかない。

ですから日米は対中関係についてはできるだけ協力する。と同時に同盟関係を維持することだと思います。

手嶋 しかし、例の「ニューヨーク・タイムズ」への投稿記事は、中国に外交カードを与えてしまった。それを巧みに使っているのは中国です。カーティス 中国は一部の人だと思いますが、アメリカに対して、ワシントンが鳩山政権に対して不信感を持つように、「実は日本はアメリカを追い出すようなかたちで東アジア共同体を目指しているのだ」と言っているという話も聞きますから。

手嶋 しかも鳩山さんがニューヨークで「東アジア共同体」構想をもちかけたとき、胡錦濤さんはまったく

カーティス 鳩山政権は日米安保を維持するなかで沖縄における米軍のプレゼンスの縮小を考えているなら、その交渉を始めたというべき

だ。しかし、連立を組んでいるとしても数名しかいない社民党と国民新党に配慮して米軍基地の問題に取り組もうとするなら、日米同盟関係そのものの維持が問題になる。

総選挙で日本国民は社民党の非武装中立を支持したわけではないし、社民党とか亀井静香さんに振り回されるのはおかしいです。

手嶋 日本の有権者は、民主党のマニフェストを評価して勝利を与えたわけではない。自民党が政権を担う能力を喪失していると判断したので、かなりの不安を承知で民主党を選んだわけですから。鳩山政権はその肝心なところを間違えないようにすべきです。